

様式 4

平成 27 年度 第 3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校

学校長 河田 雅志

評 価 日	平成 28 年 3 月 4 日 (金)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>① 主体的学習者の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の協働性、同僚性について、「教科や学年担任間のシステムとして閉塞感がある」とあるが、方策はないか？ ・ALが定着していると思う。ある先生との会話で、生徒が「今日の授業は力がついたように思う」と発言したと聞いた。子どもたちと関わり合いながら先生も成長しておられる。これがALの本質だと思う。ALで知識を定着させる取組みも素晴らしい。 ② 進路指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の志望大学についての早め早めの取組みができていることを評価したい。 ③ 積極的な活動の創成 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の生徒が減少しているということは、特別支援会議、ケース会議が役割分担の会になっていて、適切に機能している証拠である。職員の誰が何をするか明白になっていると思う。 ④ 広報連携力と国際理解教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・スクラム教育についてだが、郡部の保護者から「県費で市内の生徒ばかり指導してもらえていいなあ」という声を聞いた。郡部も恩恵があるよう工夫してほしい。 ⑤ 定時制教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現ができており評価できるがその要因は何が挙げられるか。 <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに共有したいデータ、資料等を貼付し、情報発信、共有している。ここ 1, 2 年で教職員の異動が有り、教科学年主任会を中心に担任と教科、担任と分掌の連携を今以上に図っていきたい。 ・他校に比べて先進的な取組を意識して進めているので発展途上にある。実際、高大接続でALの深化（成果）をどのように測っていくか、その尺度作りに苦心している。 ・スクラム教育で取組んだことを基に高校の授業にどう繋いでいくかを検討しており、高校の授業改善につながっている。 ・指導する教員が力量の向上に努めており、教員集団との信頼関係につながっている。キャリアアドバイザーの助言も効果的であった。 ・年度末までに、県教委に様式4と学校自己評価表(最終)を送付するとともに、学校のHPに学校自己評価表(最終)を掲示する。 	

2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について

- ・特になし

3. 取組改善のための提言(感想等)

- ・授業評価アンケートの結果のまとめ方として、前期後期の増加は毎年の傾向か。昨年、一昨年と比べてどうかを検討してほしい。
- ・ALの概念図を教室に掲示し、お飾りにならないよう、授業の中で活用しながら生徒に浸透させてほしい。
- ・先生方の姿を見ていて一生懸命やっておられる様子が伝わる。先生方もため込まずにはき出して、疲れを出さないようにしてほしい。
- ・この会に参加し、我が子を通してみている以上に学校の様子がよく分かるのでありがたい。先生方の取組を子どもに伝えたい。
- ・子どもは家で学校の話をよくしてくれ、学校生活を楽しんでいる。先生方に感謝している。
- ・校長先生のメッセージをはじめ、学校の様子をタイムリーにかつ綿密にHPで発信することが、学校評価にプラスにつながっている。